

1. 授業の概要(ねらい)

領域「言葉」は、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」ことを目指すものです。幼稚園教育において育みたい資質能力について理解し、保育内容の領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付けると共に、幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けることを目標としています。しかしそれに留まらず、保育における子どもの見方、子どもへの関わり方といった保育者の姿勢も学びます。

2. 授業の到達目標

- ①人間にとっての言葉の意義や機能を理解する。
- ②幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。
- ③子どもが言葉を獲得していく過程を理解する。
- ④言葉に対する感覚を豊かにする実践について、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。
- ⑤言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財の幼児にとっての意義を理解する。

3. 成績評価の方法および基準

授業への参加態度(毎回のコメントペーパー)・提出物で(50%)、学期末のレポート(50%)を総合して評価します。

4. 教科書・参考文献

教科書

文部科学省・厚生労働省・内閣府 平成29年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(原本) チャイルド本社

参考文献

文部科学省 『幼稚園教育要領解説』

厚生労働省 『保育所保育指針解説書』

戸田雅美編著 保育内容 言葉 一基礎的事項の理解と指導法― 建帛社

高杉 自子 他編 『新保育講座10 保育内容「言葉」』 ミネルヴァ書房

守永 英子 他 『保育の中の小さなこと 大切なこと』 フレーベル館

5. 準備学修の内容

- ①保育で用いる制作物の宿題が出ます。これには大変時間がかかります。手間を惜みず、丁寧に仕上げて下さい。
- ②絵本や紙芝居の読み聞かせ、素話などの練習を十分重ねて下さい。授業で発表して頂きます。

6. その他履修上の注意事項

- ①帝京大学幼稚園の見学をはじめ、幼稚園・保育所のボランティアなどに参加し、実際の保育の様子を知る努力や、子どもと関わる経験を、自分から積み重ねていって下さい。
- ②よい保育者には発想の柔軟さや豊かな感性も不可欠ですから、質の高い児童文学や絵本、玩具などに日ごろから親しんで下さい。

7. 授業内容

- 【第1回】 導入 ①受講上の注意 ②保育内容のとらえ方と領域「言葉」
- 【第2回】 ことばの発達 ①ことばの発生 ②2・3歳ごろのことば ③赤ちゃん絵本
- 【第3回】 ことばの発達 ④ことばの働き ⑤4・5歳ごろのことば ⑥幼児の絵本(1)
- 【第4回】 ことばの発達 ⑦就学前のことば ⑧文字への興味 ⑨幼児の絵本(2)
- 【第5回】 保育の中のことば ①ことばを豊かにする環境
- 【第6回】 保育の中のことば ②保育者の役割と具体的な援助
- 【第7回】 様々な児童文化財 絵本の探求(教材研究) ①課題絵本を読み込む
- 【第8回】 絵本の探求(教材研究) ②グループで課題絵本の探求を検討し合う
- 【第9回】 絵本の探求(教材研究) ③絵本の探求のグループ発表(その1)
- 【第10回】 絵本の探求(教材研究) ④絵本の探求のグループ発表(その2)
- 【第11回】 ことば遊び ①ゲストティーチャーによるソングワークス
- 【第12回】 ことば遊び ②ことば遊びの実践について文献から学ぶ
- 【第13回】 ことば遊び ③グループでことば遊びを創作する
- 【第14回】 ことば遊び ④創作したことば遊びを発表する(その1)
- 【第15回】 ことば遊び ⑤創作したことば遊びを発表する(その2)
- まとめ:今学期の学習を振り返る。

履修者の人数、特性により、予定を変更することがあります。